

## タウンミーティング議事録

### 1 日 時

令和2年12月19日（土）午前10時から11時30分まで

### 2 場 所

森の図書館 視聴覚室

### 3 参 加 者

#### （1）特 別 職

井崎市長、石原副市長、田中教育長

#### （2）部 局 長

須郷総合政策部長、伊藤市民生活部長、早川健康福祉部長、  
大島環境部長、石野まちづくり推進部長、石井土木部長、  
菊池教育総務部長、前川学校教育部長

#### （3）事 務 局（秘書広報課）

若林課長、影山課長補佐、三好係長、竹中主任主事、  
金子会計年度任用職員、須賀主事（記

### 4 来場者数

31名

### 5 質疑回答

裏面のとおり

## Q 市民

環境政策課やクリーンセンター、清掃員の方におかれましては、毎日ごみの処理を丁寧に行っていただきありがとうございます。

本日は指定ごみ袋の導入についての話をさせていただきたいと思い、このようなパネルを作ってまいりました。

13年前の2007年に廃棄物対策審議会において、ごみ分別の徹底やごみ袋の取り扱い、集団回収の報奨金について議論されました。

これを受けてどのような対策がされてきたか、我々にもわからないところがあります。

また、2019年に後期基本計画ができ、パブリックコメントが募集されましたが、この時のパブリックコメントは1人が9件の意見を出されています。

この中で、ごみの減量とごみの資源化に関しては、ごみの発生量を減らす教育要請をするとともに、ごみの発生抑制及び減減の徹底を図るというような回答であり、残念ながら、1人のパブリックコメントのみで終わっています。

2020年の6月に市長より一般廃棄物の排出にかかる指定ごみ袋について諮問するという話があり、2020年の7月にこの件を受けて、審議委員が15人選ばれました。

国立の立派な先生の方が何人か、また市民が5人、公共団体の方々が加わって審議され、その結果、7月30日に市長あてに答申されました。

その内容を受けて、我々は9月1日にパブリックコメントを出しました。

それに関するコメントが約490通くらいだったかと思いますが、その内容の部分は、個々の質問に対して、市としてこうだという回答も出されています。

ひとつくらい修正や変更があるのかなと思ったのですが、修正も変更もありませんでした。

内容的には、ごみの分別がしっかりなされるということや、有料化することでごみを捨てる方の意識が高まり減量化されるのではないかとということで、指定ごみ袋は必要であろうとのことです。

私は今、有料化と話しましたが、私も最初は有料化だと思っていたのですが、環境省で出している有料化の手引きにより「有料化とは一般廃棄物処理についての手数料を徴収する行為」とであると定義されています。

つまり、手数料を上乗せせずに販売される、一定の規格を有するごみ袋の使用を排出者に依頼することは、有料化に該当しないということです。

しかし、流山市指定ごみ袋を作り、販売し、提供するということは、結果的には、それを購入するということになるので、市民としては有料化という感覚となるわけです。

この話は95%と、ほとんどの方が反対されているようなので、少し検討してもらいたいと思います。

13年かけて、指定ごみ袋を導入するという事しか方法がないのですかということがまず一つの質問です。

一番高いごみ袋と言われていた東京では、この指定ごみ袋については、平成21年3月31日に廃止しており、東京23区では透明か半透明の袋であればどこのものを使ってもいいという、今の流山と同じ方法をとっています。

この違いを精査していただき、本当に導入するのかということを検討していただきたいです。

環境省の説明の中ではシール方式を採用するところもあるらしく、指定ごみ袋の導入ではなく、シール方式を採用するという考え方もあります。

ごみ分別の啓蒙についてですが、実は自治会の中でも年に1回ほどイエローカードを貼られています。

今12ヶ所の集積所がありますが、イエローカードが貼られるたびに、一軒一軒を回り啓蒙活動を行っています。

また、有料化実践時に、障害のある方などに対しては、手数料を減免するという考え方を持っていただけるといいと思います。これは環境省の説明でも推奨されています。

## A 市（市長）

一部、前提としての情報を共有する必要がありますので、説明させていただきます。

今回の指定ごみ袋の導入は、分別とリサイクルを進めて、燃やすごみを減らす、或いは、リサイクルに回せるプラスチックごみを増やすということが目標です。

流山市の焼却場は、平成9年に人口推計をとり、17万7,000人に対応できる焼却所として作られています。

容量としては、3炉で207トンとなりますが、安全運転のために2炉運

転しており、他の一炉はできるだけ改修や維持管理のためチェックをしたりして休ませており、やむを得ない時のみ3炉で運転をしています。

ご存知のように、流山市は人口が増えており、来月の前半には20万人を超えるのかという状況ですので、この17万7000人に対応できるように作られた平成9年のプランはギリギリのところとなっています。

まだパンク状態というわけではないのですが、この6年間で流山市の人口は16%増えており、ごみの処理量としては、12%増えています。

つまり、皆さまが努力をしていただいているおかげで、1人あたりのごみの量は減っていますが、人口はどんどん増えていますので、全体としてのごみの量は増加しています。

先ほどもお話ししましたが流山市の焼却炉は3炉ありますが、理想的には、1炉は点検・維持管理・修理に回せるように休止しておくことが望ましく、この2炉運転となると処理できる量が138トンとなります。

そして、ものすごく山積みになるというわけではありませんが、138トンより少し多いごみが運び込まれている日が最近では200日程度あり、また、今年の5月に緊急事態宣言が出ていた時には皆さん断捨離をされて、ものすごい量のごみが出てまいりました。

その時は少しパンク状態になりましたが、そういった際には、ごみの回収の無い日曜日に燃やしたり、一時的に3炉をフル稼働して対応しているところ です。

今後、これ以上ごみが増え続けると、点検や維持管理、修繕をする時間の確保が難しくなってくるという状況にあります。

そこで皆さまにごみの減量と分別の徹底にご協力いただき、燃やすごみを減らし、リサイクルに回せるごみを増やしていきたいということで、燃えるごみとプラスチックごみの指定ごみ袋導入を検討しているというところです。

ここで、実際に指定ごみ袋の導入によりごみを減らせたという事例を紹介させていただきます。

約10年前、兵庫県神戸市が指定ごみ袋を導入する前の年と導入した翌年と比較すると、ごみの量が約26%減っており、また、愛知県の豊橋市では導入翌年は15%、さらに翌年は17%※<sup>1</sup>ごみが減っており、かなり効果が大きいことがわかります。

先ほどお話にも出てきましたように、4月1日からレジ袋の有料化が始まり、費用を払い続けて袋をもらっている方もいらっしゃるかもしれませんが、

比較的多くの方がスーパーやホームセンターで市販のごみ袋を購入しているのではないのでしょうか。

私も市販の45リットルくらいの袋を購入しており、大きい袋を購入するほうが結果的に費用を抑えられます。

ちなみにレジ袋を購入しながら再利用されている方はいらっしゃいますか。

(少数の参加者が挙手)

ありがとうございます。

お店にもよるのですが、まだ無料でレジ袋を配布しているスーパーは市内ですと2店あります。また、マイバッグを持っていくと、2円から3円ほど還元されるお店もあります。

しかし、調査をしたところ、レジ袋を買うと3円から5円かかるようです。

1人オムツをつけているお子さんがいる4人家族の子育て世帯ですと、月間のごみの排出量は、400リットルとなります。

これは近隣で実際に計測しているところからデータを持ってきていて、月に400リットル排出されるごみの捨て方によって変わる費用の比較をご案内します。

まずは10リットルのレジ袋で出した場合です。10リットルとはスーパーでしっかりと買い物をしたときにもらえる大きさの袋となりますが、袋代金が1枚あたり大体3円から5円として計算し、先ほどの400リットルをすべてこれにより賄うとすると、月間で120円から200円ぐらいになります。

そして次に、コンビニで袋を購入する場合ですが、コンビニの袋は小さく、5リットルくらいの袋を渡されるのが普通です。この5リットルの袋で計算しますと、月間240円から400円程度になります。

ここで、現在皆さまが多く使われている45リットルの袋ですが、これはセールのときだと1枚6円程度で、高いお店で16円<sup>※2</sup>ほどです。

これを先ほどの月間400リットルに換算すると、54円から144円<sup>※3</sup>となります。

もう少し小さな30リットルくらいの袋を買われると、70円から168円<sup>※4</sup>ぐらいになると、実際に市内調査を行った結果として出ています。

今考えている指定ごみ袋は、松戸市や柏市とほぼ同じ値段設定で業者に依

頼していく予定です。1袋の値段がお店によって違いますが、45リットルですと月に81円から144円、30リットルですと126円から168円ということで、レジ袋よりは今検討している指定ごみ袋の方が数割安いことになります。

現在流山市のごみの中には、リサイクルに回すべきプラスチックのごみが燃やすごみの中に混入していますが、これがきちんとプラごみとしてリサイクルできるようになると、リサイクル促進に結びつくことはもちろん、先ほど説明しました燃えるごみを燃やす焼却炉の稼働率を抑える効果もあります。

また、燃やすゴミについても、指定ごみ袋を導入することで、皆さんが不要なものを買わなくなったり、自治会の皆さまの今までのご協力に加えて、個人でもごみに対する意識が進み、先ほどの神戸や豊橋市で実証されているように、15%から30%近くごみを減らせます。

流山市の焼却場を増設するということになると、100億円程度の費用がかかる話となりますので、皆さまにご協力いただいて、今の焼却場を安定的に使っていただけるような状況を作り出したいという思いで、指定ごみ袋の導入を検討しているものです。

皆さまが憂慮される点については、市としてもきちんとご意見を受けとめてさせていただき、対策を検討してまいります。

スケジュールとしては、来年の10月から施行、再来年の4月から実施を予定していますが、来年の1月24日に東部公民館、1月30日におおたかの森センター、1月31日の午前に南流山センター、そしてこちらの地域では1月31日の午後1時30分から3時まで北部公民館で、この指定ごみ袋の導入に関する説明会を開催させていただきます。

その説明会でいただいたご意見についても、しっかりと検討してまいります。

長くなりましたが、皆さまの努力により人口的に見ても少ないごみの排出量となっていますが、流山の清掃工場を安定的に使っていくために、さらにそれを一歩進めて、ごみの減量にご協力いただきたいということで、この指定ごみ袋の導入を検討している次第です。

今頂戴しましたご意見はしっかりと受けとめて、今後検討してまいります。

(注釈)

本議事録公開時点での最新のデータは以下のとおりとなります。

※1→16%    ※2→14円    ※3→126円    ※4→140円

## Q 市民

まず、うちの地区に、上水道を布設していただきましたことお礼申し上げます。

大和ハウスのところの交差点の開発行為についてですが、県道の改良工事により歩道部分が右側にあり、広い空間があったのですが、今回の工事で幅が狭くなり、1メートルくらいの柵もあることから逃げるようなこともできない状態なので、開発行為の指導をする時には、しっかりと自治会向けに説明会を開いて協議していただけるようにようお願いしたいと思います。

なお、今回の件は県道のことなので、市に意見しても、県に伝えてもらうようなことしかできないのかと思いますが、こちらの方でも県に訴えかけていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

それと、消防団の関係で、現在は消防団に入団される方が少なく、地区の充足率も満たせていないような状態だと聞いています。新しく移り住んできた方は、消防署があるから別に消防団はいらないという考えの方もいます。

こちらは北消防署管轄で、火事があった場合は他の消防署の応援も来ますが、同時に他の場所で火災があった場合には対応が難しくなるといいますし、消防団がいないと対応ができないような状況だと思います。

なので、市には消防団の必要性を住民に周知していただき、バックアップするような後援会などの方策をとっていただきたいと思います。

バックアップがないと、消防団に入るという意識もないと思いますので、よろしくお願いします。

## A 市（副市長）

今頂戴いたしましたお話は、市としても重く受けとめたいと思います。

歴史を申し上げますと、日本では消防団の方が、常備消防の消防職員よりも歴史は長く、町火消しの時代から存在していたということであり、消防団の必要性は非常に重要だと理解しています。

ただ残念ながら、都市化の進展の中で、東京への通勤者が多い本市においては、消防団の訓練など時間的な制約もあり、入団を促進してもなかなか入っていただけないという現状があります。

消防総務課の中で、消防団を増やそうという努力をしており、待遇についても近隣と比べて出動手当の見直しをしておりますので、消防団の必要性について絶え間なく啓蒙していき、入団者を増やす努力をさせていただきたい

と、消防長に代わってお答えさせていただきます。

#### A 市（土木部長）

ご指摘いただきました交差点について、完成してから少し時間も経っていますので、周りの利用状況等も確認しながら県の方へ状況を伝え、改良すべきところについてはお願いをしていくという形をとらせていただきたいと思います。

また、企画段階での地元の方への相談などについては、これは市としてもそうなのですが、事業者の方にもしっかりと協議をしていただけるよう今後対応してまいりたいと思います。

#### Q 市民

ごみ袋の有料化について意見があります。

確か10数年前に、ごみの袋の有料化の問題が市から提案されたことがありました。

当時は自治会で、何回も何回も住民が集まって相談が行われ、40人から50人の住民が確か4、5回集まりました。

私も2回出席しましたが、賛成の方は一人もいませんでした。

分別は大事だということで現在は自治会を挙げて努力し、しっかりと分別できていると思います。

人口の増加により増えたごみを袋の有料化で減らすという考え方なのでしょうが、そのような方法ではなく、知恵をもっと絞り出せばいいと思います。

私たちの自治会のごみの削減にかなり協力的に進めてきていますが、自治会によっては温度差があると思います。

市がごみの増加により困っているという情報自体、我々には届いていません。ごみが増えているのでどう対処したらいいのだろうという相談を自治会に投げてもらえれば、我々は色々な知恵を絞り出します。

有料化によって、ごみを減らすというようなやり方ではなく、もっと徹底したやり方もあります。例えば、水に濡れた生ごみをそのまま焼却場に持ち込むことだって重量的に無駄になっているわけであり、もっと工夫する余地はあると思います。

市から問題が投げかけられて初めて、みんなが考え出して、こういうやり方があるよという知恵が出てくることになると思うのです。

今回は余りにも短い時間の間で検討しろという話だったと思います。

パブリックコメントの1週間ほど前に自治会からニュースが回ってきて、あと1週間ほどで意見を出せというような状態であり、自治会も今コロナで集会を開くのが難しく、迅速に対応し難い状況です。

もっと時間をかけてじっくりと意見を聴取できるような時間があれば、我々はもっと色々な情報を出せるし、対応もできると思います。例えばゴミの泥棒があった時も、みんなで町に立ってごみの泥棒を防いだこともありました。

今、ごみが増えて困っているという情報を自治会に投げていただければ、自治会の役割としての対応もできますが、何も問題ないと感じているのにいきなり有料化と言われても、何で有料化なのだろうと感じてしまい、情報のギャップも感じます。

市長が言われたごみが増えているという問題点は、我々は今日ここに来て初めて知りました。

柏市の友人は「柏市では有料化しているけど、流山市はそうしないで努力のみで対応できていて素晴らしいよ」と言っていました。

他の市が有料化で対応している中、流山市は努力と市民の知恵を使って新しい方法でごみを減らそうとしている素晴らしい市だということを売りにすることが、これから流山市が選択する道ではないかと思っています。

## A 市（市長）

今回は、有料化ではなく、指定ごみ袋の導入となります。

先に発言いただいた方のお話に出てきましたが、焼却する費用を袋に載せた場合が有料化となり、今回は焼却費用を載せることはありません。

市民の皆さまの感覚からすると、有料の袋を買うということで有料化というように思われるかもしれませんが、先ほどお伺いさせていただいたように3分の2ぐらいの方は、市販の袋やレジ袋を買っているわけです。

そういう意味では、現在でもごみ袋のための支出は行われているわけで、流山市としては、指定ごみ袋に焼却に関わる費用を載せてはいませんので、指定ごみ袋と有料化は、分けて考えていただくようお願いしたいと思います。

ただ、先ほど申し上げたように、人口は増えていますがごみの量は、並行しては増えていません。つまり、皆さまには、すでにならりのご協力をいた

だき頑張っていると思っていますし、本日ここにお越しいただきご意見をいただいている皆さまにおかれては環境問題に真摯に取り組んでいただき、特段の努力をしていただいているのかと思います。

ただ、地域や自治会によって、或いはマイホームとそうでないものなど、生活方法によって大きく異なるので、すでに努力していただけているところに、さらに努力してくださいというのは、現実問題なかなか難しいと思います。

そこで、先ほどお願いしたように、市販袋を利用していただいているところに変えて、できるだけコストを抑えるように努力した指定ごみ袋を利用していただくことで15%から30%のごみの減量ができれば、その後もずっと焼却場を使えます。

流山市の人口推計のピークは21万5,000人となっていますので、これから来る人口のピークに向けて、皆さまにご協力をいただきたいとお願いしているところです。

ただ、ご意見を受けて、これに対してきちんと説明、また、納得いただけるように何かしらの対策を取ればと考えています。

先ほどご案内した来年1月の説明会の時にも、詳しくお話をさせていただきたいと思います。

#### Q 市民

市長のおっしゃることはわかりますが、今より値段が高くなることは事実ですし、一般の市民の受けとめ方としては、特定の業者が印刷をしていて、人件費が上がったので値上げしますという話が出た場合、値上げしたらそれをストップする方法はないことに不安を覚えます。

もっと考える時間を作った後で、どうしても打つ手がないという状況でこの話が出てくるのならば理解できますが、コロナで皆が苦しんでいる時代に負担を増やすような行為では心が痛むばかりです。

有料化の定義はいろいろあると思いますが、一般市民の受けとめ方としては、今より値段が上がることを有料化だと感じますので、そのところはよく理解していただきたいと思います。

#### Q 市民

指定ごみ袋を導入すれば、ごみの減量となるということが理解しにくいと

思います。

改めて考えてみると、指定することでごみが減るということは、流山市外の方が捨てているということであり、これは大きな問題だと思いますが、本当に指定ごみ袋の導入でごみが減量できるのか疑問に思います。

もっと言えば、印刷する業者に利益が生じてしまうだけではないかという疑問すら持ちます。

#### A 市（市長）

燃やすゴミとプラごみの分別を徹底することや、ごみの量そのものに気を付けていただくことで、先ほど申し上げたように、神戸市で30%※<sup>5</sup>、豊橋市では15%から17%※<sup>6</sup>ごみの量が減っており、全国的に効果があることであると知られています。

千葉県内では流山市と我孫子市以外は指定ごみ袋を導入しており、例えば、柏市から近い市境にある自治会などでは、市外の方が駅に向かう途中にごみを捨ててしまう事例があり、現状、流山市ではどのようなごみ袋でも回収しているので、市外のごみが市内のごみの中に混じってしまい、この対応に苦慮されているということを自治会の方から聞いております。

流山市でもご協力が十分いただけてない地域も含めて、指定ごみ袋を導入し、しっかりと分別をしていただくことにより、ごみを減量し、流山の清掃工場の安定的運転の実現を目指しているところです。

ただ、ご指摘いただきましたとおり、市販のものと比べてどれくらい高くなるかというところが皆様の気になっている最大のポイントだと思いますので、できる限り市販の袋に近づけるということが必要であると認識し、検討してまいります。

（注釈）

本議事録公開時点での最新のデータは以下のとおりとなります。

※5→26% ※6→16%

#### Q 市民

現在、高校生の子供を2人育てており、私は子どもたちの母校の東深井中学校と東深井小学校で図書ボランティアとして活動させていただいています。

今回は流山市の学校図書室の改善についてお願いしたいことがあり、参加させていただきました。

流山市では司書の方が週 1 回ほどしか放課後図書室を開放していません。

特に帰宅部の中学生は、学校が終わってそのまま自宅に帰る形になりますが、中学生は心や体は大きくなっていても、まだ幼い時期であり、家庭内では親との衝突なども多く、北部地域のみならず流山市全体を通じて、中学生の居場所がないのではないかと危惧しています。

小学校までは児童館や学童などの手厚い支援がありますが、中学生となると、「部活に入っていれば大丈夫でしょう」というようなところもあります。

子供たちが、「ちょっと疲れちゃったな」と感じた時に、ほっとできる居場所があればいいなと思っているのですが、その場所が学校の図書室であれば、学校が終わった後に少し図書室に寄って、一息ついてから家に帰るということができると思います。

中学生以上になると保護者の方も夫婦共働きが多くなり、家に帰ってずっとゲームをする子もいますが、人と話すことでストレスを発散する子もおり、特に女の子は、ささいな話を誰かに聞いてもらってスッキリしてから帰りたい子が多いと思うのですが、そのようなことができる場所がない状態です。

学校側に放課後の図書室開放ができないかということをお伺いしたところ、各学校の判断に委ねるということでしたが、各学校の先生方はすごく忙しいので「司書の方がいないので図書室は開放できません」という状況となっています。

色々調べたところ、他の市町村では、地域ボランティアの方に昼休みや放課後に図書室に来ていただき開放しているそうです。

流山市は開かれた学校を目指すとは言っていますが、まだまだ地域の方がボランティアとして図書室を開放するということまでは入り込めていません。

来年度は北部中学校区でコミュニティスクール、開かれた学校委員会がスタートすると思いますので、ぜひ地域ボランティアを活用していただき、地域で子育てができるような環境を作っていただきたいと思います。

特におおたかの森や南部地域でも、今後直面する課題だと思いますので、中学生だからもう子育てに手をかけなくていいということではなく、中学生だからこそ、子育てを手厚くしていただきたいと思います。中学生になったときに、地域にちょっとしたことを相談できるような方がいるということはとても大事だと思います。

図書室の開放への地域ボランティアを活用について、各学校に委ねるので

はなく、教育委員会が率先して引っ張っていただきたいと思います。

子供たちにとっては流山がふるさとなるので、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

A 市（学校教育部長）

お話をいただきましたように、本市では学校だけでなく、地域と一体になって子育てができるような教育環境を目指しており、子どもたちの放課後の居場所づくりについては、部活動だけでなく、様々な場所に居場所を作ることの重要性を十分に認識しているところです。

その中で、図書室の開放については、今おっしゃっていただいたとおり、北部中学校のコミュニティスクールで実施してまいります。

こちらは市内全域に広めていく計画なので、多くの方に地域ボランティアとして活躍していただき、図書室の開放も含めて前向きに検討してまいりたいと思います。

Q 市民

江戸川台小学校はこの時期落ち葉が非常に多いということで、落ち葉掃除のお手伝いに行きました。この回収した落ち葉をどう処理するのかを教頭先生にお伺いしたところ、このお忙しい中、先生方が自身の手でエコセンターまで運んでいるとのことでした。

私の地域ですと、毎週月曜日に業者が回収に来てくれているので、横の繋がりですと学校にも寄って回収をしているのかと思っていましたが、そうではないようです。

縦割り行政的で少しおかしいなと感じており、本日は学校関係者の方も多くいらっしゃるのので、ぜひ現場がどうなっているのかを見ていただき連携を取って対応していただければと思います。

A 市（学校教育部長）

学校現場の事までご配慮いただき、本当にありがとうございます。

実は私も江戸川台小学校で現場経験をしており、今はこの立場で仕事をさせていただいておりますが、逐次、校長会や教頭会で状況を聞いたり、直接学校に出向いたりすることで、現場の状況把握に努めているところです。

私が現場にいた時代に、処理しなければいけない枝が大量に出てしまった

ことがあり、役所に相談し回収していただいたことなどもありました。

教職員の業務改善のためにも、いただいたご意見を学校現場、または管理職に投げかけて反映させていただきたいと考えています。

#### Q 市民

先ほどのごみの件で、明確に何が現状の問題なのかということがわからなく、プラスチックと他のごみが分かれていればいいのではないのかと私は感じました。

現状の問題点を明示し、放置すると10年後にはこうなってしまうのですよというビジョンを示してもらおうとわかりやすいのかなと思いました。

市長は正直に話してくれていますが、平成9年にこの事態を想定していたとはいえ、令和2年までの約20年間何をやっていたのだと突っ込まれてしまうと思います。

なので、このように考えてきましたが、現状はこうなっていて、今後10年続けば、住民に対してこのような負担が生じてしまいますよというように説明してくれると、わかりやすいのかなと思いました。

以上は本日の説明をお聞きして感じた率直な意見となります。

次に、東深井で一番困っているのは、マクドナルドとガソリンスタンドのところの交差点なのですが、対応について何か動き出しているようで、このスケジュールなどを説明いただければと思います。

#### A 市（土木部長）

東深井の交差点の渋滞対策ということで関係する地権者の方に、9月にご挨拶を兼ねて説明を行わせていただいたところです。

現状、設計を進めているところであり、千葉県の公安委員会、県警本部の方向けの図面を作成して協議している段階です。

それが整い次第、地権者の方だけではなく、自治会や近隣住民の皆さまを含めて、全体の説明会を展開していきたいと思います。

ご存知のことかと思いますが、こちらは大きな交差点となりますので、沿線の地権者の方や店舗出店者の方も多くいらっしゃる、関係する皆さまのご理解を得ながら進めるとなると、なかなか簡単には進みづらく、計画としては5年から6年の計画で考えています。

## Q 市民

私は手話サークルに属していますが、昨年３月に、ろう者の言葉である手話言語を広めていこうということで、手話言語条例の制定など市の方で色々ご尽力いただいたことに対して、この場を借りて感謝申し上げたいと思います。

来年度から６年間にわたる第６次高齢者計画がスタートするということですが、公共施設に情報保障の設備をつけていただきたいということをお願いしたいと思います。

費用のかかる話であり、以前にも差別解消法の時などに色々話題になったかと思いますが、今後６年間で計画的にやっていただけたらと思います。

例えば、日頃利用している、生涯学習センターや、市民活動推進センターなどの各部屋で有事が発生した際に、ろう者の方は音などで把握ができないため、素人考えですが、フラッシュやパトランプを設置してお知らせしたり、スターツおおたかの森ホールではテロップで危険を知らせるような設備を改修の際に設置していただけるといいなと思います。

このような情報補償設備の設置について計画的に検討していただき、耳の聞こえない方が安心して生活できるようにしていただきたいです。

また、市内の緊急放送などについても、安心メールで文章として回していただけており、聞き取り辛い時も確認が容易にできて非常にありがたいと感じています。

このような「見える化」ということを進めていただくと、ろう者の方はもちろん、耳の聞こえる方にとっても役に立つのではないかなと思いますので、ぜひ検討いただきますようお願いいたします。

## A 市（健康福祉部長）

ただ今のご意見は持ち帰らせていただき、今後の計画や、計画に基づく各種政策の実践に生かしていきたいと思います。

今度の計画の中でも、情報アクセシビリティの向上ということで一つの章を設けており、様々な障害のある方が容易に情報を取得でき、障害のない方と同じように社会生活を送れるようにすることを大きな目標として掲げています。

施設等の課題もご意見いただきましたが、施設の新設や大規模改修を行う際には計画的に文字やサインを表示し、皆さまにご案内する際にはファック

ス番号もお示しする等の対応を推進していきたいと考えています。

（注釈）

第6次高齢者計画とお話を頂戴しましたが、第6次障害者計画のこととしてご案内しています。

Q 市民

私の孫が南流山に住んでおり、なかよし保育園というところに通っているのですが、入園した少し前ぐらいからすごくトラブル続きで、法人の理事長と園長が経営権をめぐる対立や理事長が運営費を私的に流用したり、不当な報酬を受け取っていたとかいうことがマスコミでも騒がれていました。

今の園長先生たちもすごく心配しており、最近では8月に、管轄している千葉県から勧告に従わない社会福祉法人として名前が公表されたり、未払いになっている賃金部分を返さないという裁判所の判決が出た後に、市から出ている運営費を差し押さえされたというような新聞報道が出ており、園の方からも、このようなこととなり本当に困っていますが、市の方でも一生懸命対応していますので、もう少し時間をくださいというような保護者向けのお手紙をいただきました。

私も保育園が突然無くなってしまうのかなということや、6月には経営改善のためという理由で先生が7人ほど解雇されたという話もあり、先生方の待遇の心配もあります。

何とか保育園が無くならないように頑張してほしいのですが、現状は園の方から何の音沙汰もないので、わかる範囲でお伺いできたらいいかなと思います。

A 市（副市長）

ご心配をおかけしており大変申し訳ございません。

保育園は120名定員であり、それだけのお子さんのことを考えると、存続について第1に考えるということはまさにそのとおりのことだと思います。

保育士さんについても、賃金の未払いやボーナスが払われないというような、雇用の安定が図られないということは、普通はありえないことであり、元理事長と園長が訴訟を起こしているような法人は、市内に90ある保育園の中でも他にはありません。

こちらは県を跨って広域で運営しているため、市に監督権が与えられてお

らず、千葉県と連携をしながら対応しているところです。

現時点の状況を申し上げますと、札幌に本拠を置き、名古屋や新宿などでも10数園経営している法人である幌北学園が経営を引き受けてもいいとおっしゃっていただけており、建物を無償譲渡する代わりに、賃金や未払のものを全て清算し、運営を引き受けていただくという方向で調整をさせていただいています。

正直に申しまして、元理事長が経営者としての自覚に乏しく、子どもたちに対する説明責任などの様々な面において、市としても対応に苦慮しております。

子供たちのことや保護者の皆さん、そしてそこで働く保育士さんの立場を考え、何とか園を存続させるべく、元理事長には退任を促していますが、なかなか対応に苦勞しています。しかし、すべてをしっかりと諦めてもらうというのが基本的な考え方ですので、強く指導していきたいと思っています。

ご心配をおかけしてしまい、大変申し訳ありません。

#### Q 市民

私は3月まで、都内の会社に毎日通勤をしていました。当時一番心配だったことはTXの混雑と遅れが常態化していることです。

完全在宅勤務から50%の在宅勤務となり、今は週の半分を通勤し、半分は家で勤務しています。

流山には寝に帰ってくるだけだったという生活が変わり、流山に住んでいる実感が3月以降は湧いてきており、市への向き合い方が随分変わったなと自分でも感じています。

会社としては今の臨時的な在宅勤務を、今後は恒久的な仕組みとして働き方を変えるということで、都心のオフィススペースを半分にし、残った半分以上を賃貸に出し、サテライトオフィスの整備や社員の在宅勤務に回すという決断をしています。

使ったこともないオンラインツールを用いて自宅にいて世界と会話するなんて3月までは考えてもおらず、今後10年の時代の流れが一気に1年で変わったなと心から実感しています。

そうなると、TXの乗客が減って赤字になったというニュースが今週ありましたけれども、その減った人数は、おそらくその市町村に昼間滞在しているということで、今後の市政運営で、やっぱりそういう人たちを取り込むと

いいですか、スポットライトを当てて、新しい流山の魅力を発信するチャンスと捉えていただきたいと思います。去年皆さんと総合計画について議論した時は、全く考えていなかったのも、ポストコロナに向けた新しい流山市を発信するチャンスとして、ぜひ何か考えていきたいなと感じています。

#### A 市（市長）

テレワーク在宅勤務が普及することで、TXの乗客流出はコロナの感染率が高まった時期は5割ほど、9月10月などは7割から8割まで戻っていたそうであり、混雑度については以前のような混雑具合ではなく、比較的快適な通勤状況になってきていると聞いています。

流山市においては、昼間に約6万人の方が市外に出て働いていますが、逆に昼間に流山市に来てくれている方も多く、良質な住環境づくりと並行して、快適な都市環境づくりにも力を入れてきましたが、これからはこの快適な都市環境という部分がさらに必要になってくるのかと思います。

つまり、質の高いものは東京で享受し、流山は寝るために帰る所ということではなく、流山で様々なことができ満足できる場所というような、都市としての質の向上がとても重要になってくると思います。

そしてもう一つ、新しい動きとして、30代40代の子育て世代の女性の方たちが流山で色々な仕掛けをしてきて、それが話題となり、その方々が全国の自治体から注目されて、委嘱され、国や各地の市町村に行って働くということ続々と出てきています。

また男性についても在宅勤務が増えており、男性の団体において、育休をとった方のパパになるための育休研修や、運動不足の方は子どもと一緒に筋トレ研修というような市民参加という観点の面白い動きがかなり広がってきています。

市としても、今までは市外に出て使い果たしていた経験や知恵を、この流山で使っていただけるように働きかけていきたいと考えていますので、引き続きよろしくお願いいたします。

#### Q 市民

質問の前に指定ごみ袋の件について、私は大賛成です。ゆくゆくは有料化していければと思います。

我々事業者はすでに有料で負担しており、この4月からクリーンセンター

の持ち込み料が150円から300円になって、収集予算の値上げなどもあり、いろいろ工夫してやっています。自治会長の立場としてもコロナの終わった頃から集積所に野田のごみが入ってきており、対応として各所に相談し、ごみ集積所を街道から内側に入れるという試みも行いました。

私は、柏市のように色別でなくてもいいので、指定ごみ袋をぜひ導入して欲しいなと考えています。

また、この前の市政の一般報告にあった流山市版DMOについて、本日は経済振興部長がいらっしゃらないので、わかる範囲で教えていただきたいです。

資本金5,000万で、市が2,500万、他の色々な団体から2,500万を集めて会社を作るということは聞いています。

それで流山本町や運河のツーリズムの関係だと思うのですが、新川さんのあたりの8,000平米に今流行りのオートキャンプ場を作ると聞いていますが、それは本当なのでしょうか。

また、4月の花見の際に、コロナウイルスが解決した際に備えて駐車場を整備するという話も聞いており、ちょっと紹介させていただきますが、商工会議所の方で、アプリで駐車をできるっていう制度が進められているので、このような制度を活用し進めたらいいのかなと思います。

最近作った市の第一駐車場は、今は閉まっているのかと思いますが、今後この制度を利用して収入を増やしていけるといいのかなと思い、提案いたします。

それともう1点、先ほど落ち葉が多く処理が大変だというような意見がありましたが、エコセンターの近くは、あれは落ち葉でなく、ちゃんと葉の落ちない樹木になっていますよね。

提案なのですが、その樹木のところに、我孫子市ではネットを張っているのです、そのような方式をとられたら方がいいのかなと思います。よろしくお願いいたします。

#### A 市（副市長）

民間活力を利用して駐車場整備することについて、商工会館のところで実施するという決裁が私のもとに回ってきており、これはいいことだと思いましたので判を押しましたので、来年から実践をすることになるのだろうなと思います。

それで、それと関連して、割烹新川の整備については、市としては基本的に、できれば文化財的な形で今のあるものを将来に維持していき、そのかわり、中については市民交流活動などで利用できるようにと考えています。

花見の時期の駐車場の整備ですけれども、花見の時期だけではなくて年間を通してのツーリズムなので、先ほどご提案いただいた民間のパーキング整備などについても検討していきたいと思います。

一部職員が、オートキャンプ場の話をしているということも聞いていますが、正式にDMOの株主総会で決めたわけでもなく、市の方で庁議に諮って決めたわけではないので、ツーリズムの手法を探る中で、先進事例としてそのようなことをやっている市町村を視察した結果だろうと推察しますが、それは一部職員の言動ということで、私どもの方で意思決定して実践をしたものではないということをご理解いただきたいと思います。

DMOについては民間の力でやっていくという考え方ですので、引き続きご提言をお願いしたいと思います。

#### A 市（まちづくり推進部長）

街路樹のネットのご提案について、初めてお聞きしましたので、どんなものかを確認をしてみたいと思います。

街路樹については定期的に剪定しており、落ち葉についても沿道の方にご協力いただきながら業者さんに回収してもらっていますので、こういったものを継続し、皆さまの力も借りながら進めることができればと考えています。ただ今いただきましたご意見について持ち帰り研究してみたいと思います。

#### Q 市民

台風等だけでなく地震などのような災害時に、オートキャンプ場を活用して対応できればと新聞のチラシをお持ちしましたので後でご一読ください。

#### Q 市民

東武線の運河～江戸川台間に危険な狭い踏切が2ヶ所あり、ここ5～6年で、数件の事故が発生してとうとう命まで奪われています。

先ほどの2ヶ所の踏切は、車両が通れないので、人の目による安全確認がなかなかできません。そしてこの踏切は、東深井小学校と中学校の生徒が通学に使用しており、通学路に近く、コープのほうに回る踏切に行くには大変

不便であり、こういったものの改善は大きな費用がかかると承知ですが、やはり子どもたちの尊い命を守るためにも、色々な部署で連携し、踏切の改善をしていただきたいと思います。

東深井第3自治会の会長さんとお話をさせていただき、対策としては当該踏切付近にアンダーパスを作り、完成後に踏切が閉鎖できればいいなという案が出ました。このためにお互いにできることは何でもやっていきたいと考えており、私たち東急団地自治会の役員会でも、当然のように大賛成でした。

そこで、私たちは何をやるべきなのかということを考えてみたのですが、最終的には市が積極的に計画を持って完成させていくということが必要であり、それには、署名や要請行動など、市民の声を味方につけるということが必要かと思います。

東武鉄道株式会社に対しての要請行動もあると思いますし、場合によっては流山市に対する要請行動や千葉県に対する要請行動も考えられます。

流山市の市民一丸となって、この危険な踏切を計画的なビジョンを持ち、完成までの間は、地域で安全を守っていければと考えています。

#### A 市（まちづくり推進部長）

今のご意見にありました歩行者専用の踏切は市内に数ヶ所あります。

鉄道会社としては、少しでも早く閉鎖したいという気持ちがあることはお聞きしていますが、広く住民の方の意見を確認しなければいけないことや、閉鎖したことによって不便になる地域が出てしまうなどの色々な問題がありますので、市単体ではなかなか動きにくいところもあります。しかしながら、踏切を所管している東武鉄道と協議する機会がありますので、本日このようなお話をいただきましたことは、伝えていきたいと思います。

特に安全に関することは何らかの対応をしていかななくてはならないと思いますので、重いご意見として受けとめさせていただきたいと思います。

#### Q 市民

本当に簡単に総合的俯瞰的な話をしたいと思います。

流山市のコロナの特徴、感染者の特徴、或いは今後の対策を教えてください。

A 市（健康福祉部長）

流山市においては、昨日までのこの１２月だけで８２名の感染者が出ています。およそ半数以上の方ケースにおいて、感染経路が特定されているというのが特徴であり、その中でも特に多いのが家族内感染です。

これは、家族ですから普段はマスクをしないでお家の中で過ごしていることが濃厚接触となり感染のリスクを高めているということです。

市としては、こういった家族内の感染を工夫によってある程度防ぐことができるというお知らせをさせていただいています。

特に広報ながれやまの１２月２１日号の１面の中で、マスクをすることや、共用品をできる限り別々にする、風邪のような症状があったら住まいのゾーンを分けるというような、家庭内でできる感染予防方法を紹介させていただいています。

このように、家族内感染を防いでいただきたいということが、市として皆さまに呼びかけてまいりたいこととなります。